

国際協力

No.37
2013 秋号
JICA 駒ヶ根
2013.10.1

Contents

| | | | |
|-----------------|---|--------------|---|
| ボランティア秋募集特集！ | 1 | PCM基礎セミナー募集 | 4 |
| 協力隊員現地レポート | 2 | 帰国ボランティア紹介 | 5 |
| イベント・レポート | 3 | 新職員紹介 | 5 |
| 草の根技術協力事業報告レポート | 4 | インフォメーション | 6 |
| 青年研修実施報告レポート | 4 | 長野県出身新ボランティア | 6 |

ボランティア
秋募集特集!

JICAボランティア

10/1 ▶ 11/5

秋募集説明会が始まります!



JICAボランティア(青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティア)にあなたも参加してみませんか? 20歳から39歳まで(青年海外協力隊)、40歳から69歳まで(シニア海外ボランティア)の方で健康な方ならどなたでもご応募いただけます。

JICAボランティアの目的

- 開発途上国の発展のお手伝い
- 友好親善
- 帰国後の社会還元

青年海外協力隊
20歳～39歳
原則2年

シニア海外
ボランティア
40歳～69歳

その他、日系社会青年/シニアボランティアがあって、4つ合わせてJICAボランティアと呼んでいます。



JICAボランティアは制度も充実

- ★ 国内手当(支給対象者のみ)
- ★ 人件費補てん制度(現職参加のみ対象)
- ★ 現地生活費
- ★ 往復渡航費
- ★ 現地住居の提供(任国政府またはJICA)
- ★ 任国外旅行
- ★ 一時帰国制度 など

試験に合格してから派遣までに福島県二本松市と長野県駒ヶ根市(日系ボランティアの場合は横浜市)のいずれかで派遣前訓練を受けていただくことで、海外生活の不安も軽減されます。

現職参加制度 / 勤務先に身分を残したまま参加することができます。JICAが所属先に対して人件費を補てんする制度を設けています。現職参加を希望される方は勤務先の上司などにあらかじめ相談してください。



長野県内では以下の日程で募集説明会&映画“おじいさんと草原の小学校”上映会を併せて実施します。

| 日時 | 場所 | 内容 |
|------------------|-----------------|----------------------------------|
| 10月6日(日) 10:30～ | 松本市Mウイング 3-2会議室 | 10:30～ 映画上映 13:30～ 概要説明・体験談など |
| 10月12日(土) 13:00～ | 上田市中央公民館 第一会議室 | 13:00～ 映画上映 15:00～ 概要説明・体験談など |
| 10月13日(日) 10:00～ | 佐久市野沢会館 2階中会議室 | 10:00～ 映画上映 13:00～ 概要説明・体験談など |
| 10月19日(土) 11:00～ | 駒ヶ根市 青年海外協力隊訓練所 | 11:00～ 一日体験入隊 16:00～ 映画上映 |

* 映画上映と一日体験入隊参加希望の方は、それぞれ事前のお申し込みが必要です。

応募から派遣までの流れ

< 一次試験 >

- 書類審査
- ・ 応募者調書
 - ・ 語学スコア
 - ・ 健康診断

< 二次試験 >

- ・ 人物面接
- ・ (職種により)技術試験

派遣前の70日間の訓練
(シニア海外ボランティアは35日間)

- ・ 語学研修
(派遣される国で使用する語学の習得)
- ・ 安全対策
- ・ 国際協力講座
- ・ 予防接種
- ・ 派遣国の事情など活動に必要な知識や技術を習得します。

修了試験に合格された方が派遣となります

各国へ出発!

所外活動



駒ヶ根市内の農家で農作業の体験等

学校交流



地域の小・中学校を訪問し、生徒たちと交流。派遣先の国を知ってもらう

詳しくは、Tel.0265-82-6151 jicakjv-jocv@jica.go.jp 募集担当までお問い合わせください。



協力隊員
現地レポート
from マラウイ

坂田真吾さん
(長野市出身)
平成24年度4次隊
職種:青少年活動



今年4月からマラウイに青少年活動で派遣され奮闘中の、坂田真吾さんの現地レポートです。

勤務先のマタピラ村の小学校で、音楽・体育・図工・裁縫などが一つになった表現芸術の授業を現地教員とのチームティーチング(2人の教師で1つのクラス担任。実際は一人が授業をし、他方は休憩)で教えています。この科目は2006年から新しく導入され、現地教員とアイデアを共有し、良い授業を作っていくことが私の任務です。

日本はどこにあるのか。手作りの地図を真剣に見つめている子どもたち。

「相手の文化を尊重」しつつ、より良くていくことの難しさ

「生活の質を良くする道具」についての授業を担当したある日のこと。別の担任教師が残って私の授業を観察してくれました。私は子供たちに自ら考えて答えを見つけて欲しかったので、初めから全ての解説は行いませんでした。自分で考えたり気づいたりしたことなら、誰かに伝えたいという気持ちがより強くなるのでは、と思ったからです。しかし、授業が半分ほど経過した頃、観察

していた教師が、「そのやり方は間違っている。すべての解説を先にすべきだ」と熱心に指導してくれ、その授業は中断したまま終了。現地教師との意見のすれ違いを経験しました。授業前に打ち合わせをしたにもかかわらず、始まってみなければ何が起るかわからない、ということを知ったと同時に、現地の人と共に働く難しさも実感しました。「現地の文化を尊重しつつ、より良いものを創っていく」と、言葉にすれば簡単ですが、実際にやってみると戸惑いの連続です。

子どもたちへの、マラウイへの思い

9月から新学期を迎え、さらに新たな8つの小学校の巡回指導も始まりました。どの学校に行っても感じたことは、子どもたちに成長して欲しいと願う教師の気持ちは同じということ。日本でもマラウイでも、国が異なっても変わりはありません。

どのように授業を進めていったらいいのか、それは子どもたちの授業の取り組む姿勢に答えがあるように思います。現地の教員と絶えず話し合い、より良いものがつくれるようアイデアを共有していきたいです。まだまだ自らが勉強をさせてもらっている日々が続いています。



授業中に始まった突然の指導に戸惑う子供たち。



「さようなら」と言っても、全力で追いかけてくる子どもたち。

イベント・レポート

Event Report



7/30
sat

幸せの国ブータンを 五感で感じよう!

7/30(土)、元青年海外協力隊の榎本智恵子さん(派遣国:ブータン、職種:青少年活動)によるイベントが行われました。その名も「幸せの国ブータンを五感で感じよう!」

素敵なブータンの民族衣装を身にまとった榎本さんによる、美しい映像とトーク。そしてブータンのお茶や唐辛子料理(予想以上の辛さでした!)、民族衣装の試着など、楽しく五感をフル活用!

ブータンでの経験をもとに本を出版されるなど、これからの益々のご活躍を期待しています。



写真は講師の榎本さん、そして左はブータンベシニア海外ボランティアとして派遣予定の寺越寛さんです。これから始まるブータンでの活動に向けて、瞳が輝いていました!

9/3~
9/17

フォトジャーナリスト 安田菜津紀さんの写真展開催

フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの写真展が9/3~9/16まで、長野市生涯学習センター3階で開催されました。テーマは「HIVと共に生きる—ウガンダのエイズ孤児たち」、そして「陸前高田 心の支えができるまで」。

見に来てくれた、長野県短期大学2年生の小口遥香さんに感想を聞いてみました。彼女が一番印象に残ったというのは、ウガンダの写真。川で水汲みをする一人の少女の後ろ姿でした。少女は毎日10キロもの水の入ったバケツを、HIVに感染した家族のために運んでいます。小口さんは「安田さんの写真からは



来場してくれた小口さん

アフリカの風景や家族の様子など、自分と年のそれほど変わらない人たちがどんな生活をしているかが感じられる。日本にいる自分にも何かできることはないか、できることはしたいという気持ちになった」と話してくれました。

8/1~
8/10

教師海外研修 in ブータン

本年度の教師海外研修が8/1から10日間、ブータンにて行われました。今回の研修生は、県内からのお二人を含んだ関東圏からの9人の先生方。出発前に2度の事前研修を東京で行い、事前準備もばっちり、固いチームワークを築いての出発でした。内容は、JICAブータン事務所の訪問、現地の小・中学校での授業見学、教育省や大学訪問、JICAボランティアの活動場所の病院視察、ホームステイなど、盛りだくさん。帰国後に行われた研修では、「幸せの国」ブータンで発見し体験したこと、またそれらを生徒たちへどう伝えていくかについて報告をいただきました。安曇野市立豊科南中学校の松島千尋教諭は「ブータンの人は今あるがままの全てに幸せを感じている。日本はブータンに比べれば物質的に豊かであるのに不平不満を口にすることが多い。幸せについて生徒にどう教えていくかが課題」。長野県若槻養護学校の丸山妙子教諭は、「ブータンの生徒たちは先生をととても敬っている。先生も授業に専念できる環境が素晴らしい」。また、お二人ともこの研修を通じ、ブータンの人々、研修チームの先生方、そしてJICA関係者などとの多くの出会いこそが財産だとも話しておられました。今後は今回の研修を生かした授業を各学校にて展開されます。また、1月18日には、一般公開で「帰国後報告会」も行う予定です。ご期待ください!

6/29
sat

信州グローバルセミナー2013を 開催しました

今年度も長野県民が国際協力について考える「信州グローバルセミナー2013」がJICA駒ヶ根で開催され、県内各地から153名にご参加いただき、無事終了いたしました。

オープニングでは、仁田知樹所長が「国民総幸福(GNH)の国“ブータン”と幸福度日本一の県“長野県”」と題し、GNHのもと国民の幸福について真剣に考えているブータンと、民間調査会社による幸福度ランキングで全国1位となった長野県との共通点を話しました。

午前のセッションでは、ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向け、様々な分野・地域におけるJICAや国際協力NGOの活動を各講師が紹介。参加者によるグループディスカッションや質疑応答も活発に行われました。「アジアに絵本のタネをまく」の講座参加者からは、「識字、図書を通じた教育の重要性、また活動をしているNGOの大変さがわかった」とのことでした。

昼食会場では、ベトナム、タイ、韓国の3か国の異なる麺料理を食べながらの参加者同士の交流。辛いものもあったが、色々な麺を食べることができて満足、と好評でした。

午後のセッションは、県内の団体が取り組まれている国際協力、国際交流、多文化共生のパート。各々の活動についての紹介のほか、グループディスカッションや体験型ワークショップも実施されました。「多文化ソーシャルワーク」の講座参加者からは、「難民のことや、自分自身の異文化適応について考えることができた」との感想がありました。

クロージングセッションでは、今日1日の学びを参加者同士で共有する時間とし、参加者同士でのシェア、グループによる話し合いの後、「明日への一歩」としてこれから自分が何をすべきか、について数名の方に発表していただきました。

参加者の皆様、ありがとうございました。JICA駒ヶ根では来年度も「信州グローバルセミナー2014」を実施いたします。ご期待下さい。



午後のセッションの様子



クロージングセッションの様子



丸山先生と松島先生のホームステイ先



ブータンチームの全員

草の根技術協力事業 報告レポート

JICA駒ヶ根が所管する草の根技術協力事業(地域提案型)「柿の生産と加工技術の普及」が今年9月をもって3年間の事業を終了しました。

この案件は、提案自治体が飯田市、実施団体が飯田市において市田柿の生産を行っているかぶちゃんファーム株式会社であり、ベトナム・ダラット市において日本を代表する市田柿のような質の良い柿を生産し、加工技術を普及させていくことによって農家の収入を上げていくことを目的に実施。3年間の事業期間で、飯田市でのベトナム人研修生の受入れやダラット市への技術専門家派遣が行われました。

9月の事業終了に伴い、JICA駒ヶ根から瀧沢業務課長と小嶋市民参加協力調整員がダラットを訪問して事業評価を実施。その結果、研修生への技術移転の成果は十分確認されましたが、プロジェクトの目標としていた生産者への普及については、残念ながら十分な結果は得ることはできませんでした。実施団体であるかぶちゃんファーム(株)は、事業終了後もダラット市における柿の生産に関わっていかれる予定です。また、ダラット市の農業センターも柿の生産と加工技術の農

家への研修を毎年実施していくことになったため、今後ダラット市での柿生産者の拡大が期待されます。

JICA駒ヶ根では、こうした長野県の特徴・強みを生かした草の根事業をこれからも実施していきたいと考えております。草の根事業にご関心のある団体、自治体、大学の皆様への事業実施に向けたコンサルテーションは随時実施しておりますので、お気軽にJICA駒ヶ根までご連絡ください。



柿栽培農家へのセミナーで本事業について発表する瀧沢課長



実験農場を視察する評価メンバー

青年研修「スリランカ／保健医療行政コース」実施報告レポート

スリランカからの研修員19名とJICAスリランカ事務所スリランカ人スタッフ1名の計20名が7月1日から18日まで来日し、県内での研修を実施しました。

この研修は、JICA駒ヶ根からの委託を受けた佐久市にある(一財)農村保健研修センターが担当し、研修員は、佐久市を中心に長野県内における保健・医療関係施設を視察し、医療行政を学びました。

長野県は日本の地域医療や農村保健のモデルとされています。この研修生では、長野県の農村地域における地域保健システムの成り立ちや、保健システムの運営、地域中核病院や診療所の役割、行政や市民参加による健康増進活動の組織化や実施などについて学び、帰国後スリランカの将来の保健医療政

策に役立てることを目的としています。

7月4日の開講式ではJICA駒ヶ根にも訪れ、研修期間中には佐久地域の病院や介護施設を視察。佐久市の佐久総合病院ではドクターヘリも見学しました。

今回の研修が研修員たちに実りあるものになること、そして帰国後も長野県の医療行政を参考に各々の場所で活動されることを期待しています。



佐久総合病院にてドクターヘリを見学

国際協力担当者のための PCMを活用した プロジェクト運営 基礎セミナー 参加者募集!

in
長野市

PCM(Project Cycle Management)手法は、開発プロジェクトの計画立案・実施・モニタリング・評価のための手法で、JICAをはじめ多くの開発援助機関で用いられています。本セミナーは国際協力事業に関わりのあるNGO、国際理解教育・国際交流団体等のスタッフ、地方自治体、大学等における国際協力担当者を対象としています。

「計画・立案コース」では、PCM手法を用いた国際協力事業の計画・立案の概要の理解と、より効果的な事業の実施に役立てることを目的に実施します。

「モニタリング・評価コース」では、PCM手法を用いた国際協力事業のモニタリング・評価の概要の理解と、より効果的な事業の実施に役立てることを目的に実施します。

【日時】 ①計画・立案コース 2013年11月23日(土) 10:00~18:30 / 11月24日(日) 10:00~18:00

PCM手法を用いた国際協力事業の計画・立案(2日間) → PCM手法の概論、プロジェクト事例による分析、PDM作成演習

②モニタリング・評価コース 2013年11月30日(土) 10:00~18:30 / 12月1日(日) 10:00~18:00

PCM手法を用いた国際協力事業のモニタリング・評価(2日間) → PCM手法を用いたモニタリング・評価の概論、プロジェクト事例を用いたモニタリング・評価の演習

【会場】長野市もんぜんぷら座 【参加費】無料 【定員】各コース16名(最少催行人数:6名) 【主催】駒ヶ根青年海外協力隊訓練所(JICA駒ヶ根)

【申込方法】JICA駒ヶ根のホームページ(<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>)にて詳細をご覧の上、

受講申込書をダウンロードしてご記入後、jicakjv-shiminsanka@jica.go.jpまでお送り下さい。

お問い合わせ : JICA駒ヶ根業務課担当 小嶋まで TEL: 0265-82-6151 FAX: 0265-82-5336 E-mail: jicakjv-shiminsanka@jica.go.jp

帰国したJICAボランティアの方々

2年間の活動
お疲れ様でした!!



平成23年度1次隊

湊 佑介 さん (長野市)

●派遣国: ケニア

●職種: 防災・災害救援

活動報告 & 未来の隊員へのメッセージ

私の活動は、国立公園であるケニア山の周辺の森林で起こる火災対応とその防止でした。火災に対処するため、国立公園や周囲の森林を管理するレンジャー（森林保護官）たちと、消火訓練や図上でのシュミレーションを行ったり、火災を防止する為に周辺のコミュニティに住む住民への防火指導をしました。自宅のあった村から毎日数時間かけて山間の活動地を巡り、その森や草原で働く同僚やレンジャーと研修を行い、点在するコミュニティを徒歩で回っては女性グループを中心に防災啓発活動を行いました。とは言っても、最も時間がかかったのは移動で、その次に時間をかけたのが住民と同じ立場で行う農作業や、井戸端会議への参加、薪集めや家畜の世話の様な家事でした。

当初は、夢であった協力隊になれた喜びと勢いにまかせて、しゃにむに活動しましたが、それらのほとんどが失敗。結果、現地の人と一緒にのこををし、現地の言葉を話し、現地の人



目線で考えながら啓発活動を行う事が最も効果的であることを学びました。それが分かってからは、住民との距離も近くなり、非常に充実した協力隊生活を送る事ができました。

何事もゆっくりとしたアフリカでの生活や挫折を通し、物事に動じない心持ちと、ケニア人の明るすぎるくらいの接し方から、人なつこさを得て帰国できました。

かけがえのない2年間の経験と、そこから得る人生観。途上国のため、国際協力のため、と肩肘張る事も大切ではありますが、力を抜いて、まずは「楽しむ」事を第一に、より多くの若い方に協力隊に参加してもらいたいと願います。



青年海外協力隊(H22年度4次隊 2011年3月~2013年3月)

兼山 優希 さん (長野市)

●派遣国: セネガル

●職種: 村落開発普及員



アフリカ大陸最西端に位置するセネガル共和国の、首都ダカールから450km内陸に入ったタンバクンダ州クサナール郡クサナール村にて村落開発普及員として活動してきました。

セネガル人の発展に対する自助努力向上を目標とし、野菜栽培や共同貯金制度の導入を通して、村と行政機関、村と村、村人と有識者を繋げる橋渡しの役割に従事しました。

電気も水道も学校も無い村で、村全体が家族として生きている姿がとても素敵でした。自然と共に生きる生活、時間の流れ、身近に学ぶ生と死、笑顔、そういった大切なものを残しつつ、セネガル人が望む発展の形をさぐって行ってほしいと願います。



青年海外協力隊(H23年度1次隊 2011年6月~2013年6月)

小松 洋 さん (安曇野市)

●派遣国: ジンバブエ

●職種: 体育

アフリカにあるジンバブエ共和国の首都ハラレ、マササ地区にて、障がい者と健常者が共学する中高等学校で、体育隊員として活動してきました。独立戦争で障がいを負った人達を受け入れるために作られた組織、「ダニコプロジェクト」の中高等学校、職業訓練校、生産部門で、体育授業の実施やスポーツ大会の企画、環境整備、日本文化紹介などを実施しました。

食べる物が少なくても、一皿に盛られたサザ(とうもろこし粉でできた現地の主食)と肉・野菜を家族でシェアして食べる「分け合う文化」の大切さを学び、鶏を殺して食べた時に、命を頂いていることを実感しました。日本での生活でも活かしていこうと考えています。



新職員紹介



きのした たかみつ
木下 高光

8月から駒ヶ根訓練所にて青年海外協力隊の訓練担当となりました。以前はJICA関西にあり、エジプト事務所に4年間赴任していたこともありましたが、東京本部の協力隊事務局で東アフリカと東欧の担当をしていたことはありましたが、訓練所関係の仕事は初めてです。

着任して2ヶ月が経ちましたが、涼しくて空気の良いこの街が気に入っています。仕事も含め、未永くよろしく願います。

Information JICA駒ヶ根 インフォメーション

派遣前訓練公開講座

▶ JICAボランティア事業の理念と目標

10月16日(水) 13:00～14:50 定員：10名
 講師：青年海外協力隊事務局 局長
 内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要

▶ JICA事業概要

10月24日(木) 15:10～16:00 定員：10名
 講師：青年海外協力隊事務局 海外業務調整課 杉村悟郎 企画役
 内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要

▶ 地球のステージ(コンサート)

10月26日(土) 19:00～21:00 定員：50名
 講師：桑山紀彦氏 (医師・NPO法人地球のステージ 代表者)
 内容：途上国で巡り会った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを写し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。

▶ 国際関係と日本の国際協力

11月13日(水) 15:10～17:00 定員：10名
 講師：廣野良吉氏 (成蹊大学 名誉教授)
 内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する

▶ 異文化適応概論

11月23日(土) 13:00～14:50 定員：10名
 講師：関谷雄一氏 (東京大学大学院 総合文化研究科 准教授)
 内容：文化とは何か、理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入っていくにあたっての心構え

▶ 世界の宗教理解

11月29日(金) 14:10～17:00 定員：10名
 講師：橋爪大三郎 (東京工業大学 名誉教授)
 内容：世界の宗教についての理解を深める。

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。
 ホームページ <http://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべてJICA駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

平成25年度第2次隊

シニア海外ボランティア
 青年海外協力隊

行ってきます!!

長野県出身新ボランティア

シニア海外ボランティア



小林 健二 さん 派遣国：チリ
 職種：コミュニティ開発
 (佐久市)

昨年10月末に定年となりました。それまで仕事で中南米諸国と長らく関わり合いを持ち、多くの恩恵を賜りました。第二の人生はこれらの国々への恩返しをしようと誓い、夢が叶い、チリに派遣されることとなりました。チリの人たちと共に汗をかいていきたいと思います。



杉浦 寿章 さん 派遣国：ミクロネシア
 職種：農産物加工
 (安曇野市)
 太平洋に浮かぶ島国ミクロネシアに農産物加工担当で派遣されます。高校で農業を教えた経験を少しでもお役にたてればと思い、応募しました。現地の方と一緒に考え、活動をしたいと思っています。まずは健康に留意して頑張りしたいと思います。

青年海外協力隊



西村 真由美 さん 派遣国：ベナン
 職種：青少年活動
 (長野市)

西アフリカにある、ベナンに行きます。小学校を巡回し、学校保健や衛生環境の向上を目指した支援を行います。ベナンの子どもたちが健康で元気に学校へ通えるよう活動し、子どもたちの笑顔がたくさん見たいと思います。



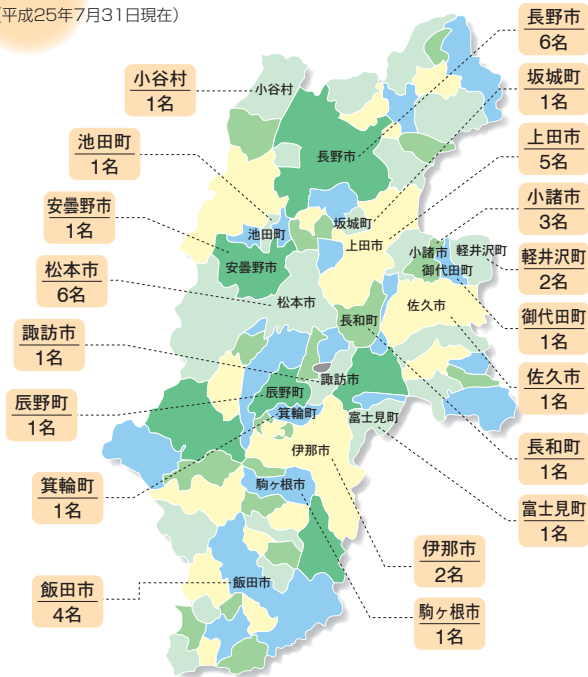
湯澤 千里 さん 派遣国：サモア
 職種：理科教育
 (南箕輪村)
 「世界で一番早い日の出が見られる国」サモア。現地でのコミュニケーションを大切に、日々子どもたちと成長し、学ぶ楽しさを分かち合えたらと思います。日本で応援してくれる両親や友人、すべての方々に感謝し、邁進していきます。



柳澤 章仁 さん 派遣国：ヨルダン
 職種：小学校教諭
 (上田市)
 ヨルダンのカルマというところで、難民キャンプの小学生たちと図工を中心に教える予定です。子どもたちが楽しいと思える授業を目指し、現地の先生方と協力しながら活動に取り組みたいと思います。

派遣中JICAボランティア

(平成25年7月31日現在)



JICAボランティア派遣実績

平成25年8月31日現在

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| ① 青年海外協力隊員 派遣中 49名 累計 880名 | ③ 日系社会青年ボランティア 派遣中 1名 累計 17名 |
| ② シニア海外ボランティア 派遣中 7名 累計 65名 | ④ 日系社会シニアボランティア 派遣中 1名 累計 3名 |

訂正とお詫び

前号36号の1ページ左の写真は、齋藤綾子さんではなく齊藤綾子さんの誤りでした。お詫びして訂正いたします。

発行 独立行政法人 国際協力機構
 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
 TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
 E-mail jicakjv@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン
 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp
 までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。